

高等部 保健体育科 学習指導案

日 時：令和4年9月13日（火）
13時10分～14時50分
場 所：体育館（半面→全面）
指導者：永井 淑子（T1）
安藤 真貴（T2）
工藤 裕美子（T3）

1 題材名 特別支援学校総合体育大会に向けて～ネオホッケー～

2 生徒と題材

(1) 生徒について

保健体育科の本題材において、ネオホッケー競技は2年生3名、3年生5名の計8名で行っている。2年生の1名は初心者であるが、他の7名はネオホッケー競技の経験がある。

技能面では基礎練習を繰り返したことで、ボール操作が上達してきた。オフェンスでは、お互いに言葉を掛け合いながらパスをつないでシュートを決めたり、ボールを長い時間キープしたりできるようになってきた。ディフェンスでは相手ボールを奪ったり、2人で協力してゴールを守ったりしている。ゲームでは、個々で動くことが多かったが、良い動きを称賛し合ったり、課題となった点を相談したりする姿も見られるようになった。

このようなネオホッケー競技の経験から、競技に魅力を感じ、休日に地元の体育館を借りて運動したり、テレビでスポーツを観戦したりする生徒も出てきた。体力づくりの時間や保健体育科の授業等で練習を重ねてきたことで、運動が苦手な生徒も自信をもって動いたり、言葉を掛け合い励まし合ったりして連帯感も生まれてきている。

(2) 題材について

本題材では、特別支援学校総合体育大会（以下「特総体」と示す）に向けて、7種目に分かれて競技を行う。ネオホッケーはゴール型の球技であり、個人やチームの能力に応じて作戦を立て、集団対集団で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる競技である。また、ネオホッケーを継続することで、主に巧緻性、敏捷性、全身持久力等の体力が高められる。

「チーム競技」であるため、それぞれの役割、得意なプレイが勝敗に関わってくる。お互いの良さや課題を分かち合い、そして補い合うことで、全員で「特総体優勝」という同じ目標に向かう団結力を養うことができる。

運動の得意、不得意に関わらず「ネオホッケーが楽しい」、「もっと上手になりたい」という思いが、卒業後の運動習慣につながると考える。このネオホッケー競技で学んだ運動経験やストレッチ方法などを、余暇の充実や健康的な生活への基盤作りにしたい。

(3) 指導に当たって

目標を達成するために以下の手立てに留意し、指導に当たる。

- ・技術習得のために、それぞれの上達ポイントを分かりやすく説明したり、見本を示したりする。
- ・自己評価や分析につなげられるように、練習中のフォームや攻守の動きを動画で撮影し活用する。
- ・生徒の実態や技術の習得レベルに合わせて、練習方法を工夫し、選択の機会を設ける。
- ・課題に気付けるように、直前のプレイについて質問し、相談したり伝えたりする時間を設定する。
- ・自信をもって運動できるように、良いプレイがあった時に即時評価したり、称賛したりする。
- ・自分の役割が果たせるように、ポジションごとに動き方や役割を確認したり、指導したりする。
- ・特総体の会場に見通しがもてるように、ベンチやフィールドなどを本番に近い環境に設定したり、審判を付けて他競技の生徒に対戦相手になってもらったりする。

3 目標

- (1) ネオホッケー競技の楽しさや勝利の喜びを味わい、目的に応じた技術とポジショニングを身に付ける。【知識及び技能】
- (2) 自分とチームの良さや課題に気付き、よりよいプレイのために仲間と相談し判断したことを、目的や状況に応じて友達や教師に伝える。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) ルールやマナーなどを守り、自分の役割を果たし、自信をもって運動する。【学びに向かう力、人間性等】

4 目標に対する評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①技術とポジショニングが分かり、それらを身に付けるためのポイントを意識している。(知) ②目的に応じたボール操作技術が身に付いている。(技)	①自分やチームの良さや課題に気付き、相談している。(思) ②状況に応じた動きを選択し、判断している。(判) ③練習やゲームの場面で、気付いたことを、他者に伝えている。(表)	①ルールやマナーを守ったり、相手の健闘を認めたりしている。 ②自分の役割を理解し、仲間の練習を補助したり、助言し合ったりして運動しようとしている。

5 指導計画（総時数14時間 本時9・10／14時間）

時数	めあて・学習活動	評価の観点			評価基準【評価方法】
		知	思	主	
2	ねらった場所に真っすぐボールを打つためのポイントとは？ ・ペットボトルに狙いを定めて、足を固定したり、ブレードを目標物に向けたりして試行錯誤しながら練習する。	①			・動画を見て打ち方の違いに気付き、教師に説明できている。【発言、動き】 ・自分に合ったポイントを見付け、ペナルティシュートを5回連続で決めている。【動き、結果】
2	ねらった場所に強く正確に打ち返すためには？ ・ペットボトルに狙いを定めて、足を的に向かって強く踏み出し、ブレードの向きに注意しながらスティックを振り切る練習をする。	②			・水が入って重くなったペットボトルに当てたり、倒したりしている。【発言、動き】 ・シュート練習では、ブレードの向きに気を付けながら練習できている。【動画、動き】
2	自分のセットプレイの動き方は？ ・シューティングラインからのフリーストロークの立ち位置や、動き方を知る。(セットプレイ①) ・セットプレイ①の動きをゲーム中に確認し、立ち位置や動きを覚える。		②		・ボールの位置に応じたポジショニングや準備動作ができています。【動き、発言】 ・ポジションに応じたボールを打つ方向が分かっている。【動き、打球の方向】
2	浮き球の処理の動きは？ ・相手ゴールラインからのフリーストローク(セットプレイ②)で、ディフェンスの動きを覚える。 ・浮き球が来た時に、気を付けの姿勢でボールを止めて、味方有利な方向に打てるようお互いに言葉を掛け合う。	②	①		・ディフェンスの動き方が分かり、浮き球やマークする相手に対して反応できている。【動き、発言】 ・友達と要求を伝え合いながら、ボールを味方に有利な方向に打っている。【動き、発言】
2 (本時)	セットプレイで、状況を判断して動こう ・味方ゴールラインからのフリーストローク(セットプレイ③)では、自分からボールを捕りに行ったり、周りの動きを見て判断したりする。		②		・言葉やサインで伝え合い連携して動いている。【動き、発言】 ・味方と相手の立ち位置や状況に応じて、動きを判断している。【動き、発言】
2	どの場面にどんな言葉を掛ける？ ・自分たちが優位にゲームを運ぶために、必要な言葉掛けや応援の仕方について考え、実践する。		③	②	・ゲーム中に必要な言葉掛けが、自分からできている。【発言】 ・自分の役割が分かっている。【動き、打球の方向】
2	特総体を振り返って、自分とチームの成果は？ ・特総体のビデオを観て、自分やチームの成果について発表したり、まとめたりする。			①	・自分やチームの成果に気付き、発言している。【動画、発言】 ・ネオホッケーを通して学んだことを今後の学習や将来に役立てようとしている。【発言】

6 本時の計画

(1) 全体の目標

- ・味方ゴールラインからのフリーストローク（セットプレイ③）での自分の動きが分かり、友達とサインや言葉で伝え合い、状況に応じた動きを判断する。 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 個々の目標

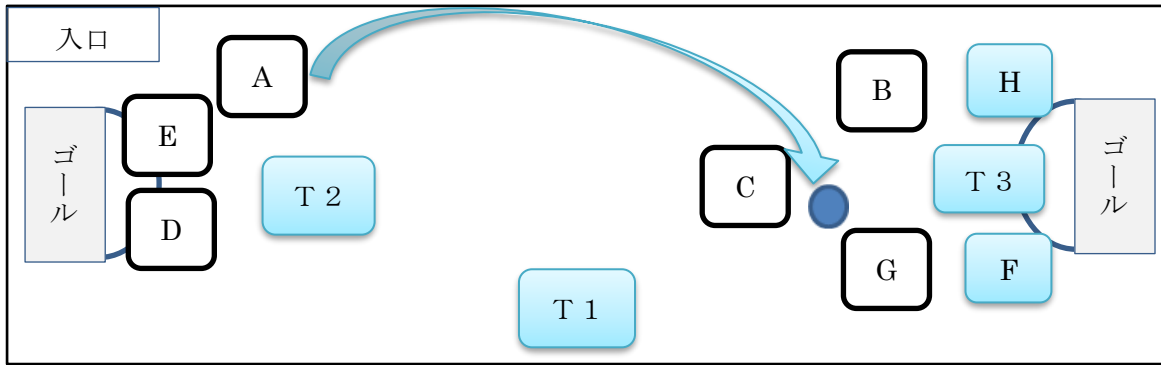
生徒 学年・性別	実態	題材に おける目標	本時の目標
A 3・男	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールをよく見てスティックを振ることで、速いボールを打てるようになってきた。 ・ブレードの角度や向きに気を付けながら、ロブ（浮き球）を7割程度の確率で、相手ゴール方向に打てるようになってきた。 ・教師や友達からの言葉掛けがあれば、自分のポジショニングが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールと相手の動きをよく見ながら、壁側にボールを打ち返したり、狙った場所にロブを打ったりする。（知・技） ・ベンチや友達の指示を聞いて相手のシュートコースを塞いだり、ゴールを狙ってシュートしたりする。（思・判・表） ・自分の役割や動きが分かり、自信をもって運動する。（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチや友達の指示を聞いてポジショニングしたり、得点を狙ってシュートしたりする。（思・判・表）
B 3・女	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム中の、相手との接触を苦手としていたが、自分からボールを奪いに行く姿が多く見られるようになってきた。 ・浮き球処理では、体に当たって跳ね返ったボールに合わせて打てるようになってきた。 ・友達と言葉を掛け合いながら、ポジショニングできるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手がディフェンスしたこぼれ球に合わせてシュートする。（知・技） ・ゲームや練習で周りの友達とサイン交換や名前を呼び合いながらプレイする。（思・判・表） ・友達と励まし合いながら、自信をもって運動する。（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と名前を呼び合っってポジショニングしたり、自分で判断してボールを捕りに行ったりする。（思・判・表）
C 3・男	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が持っているボールを、近くで見ていることが多かったが、自分の役割が分かると積極的にボールを奪いに行くことができるようになってきた。 ・浮き球処理では、体に当たったボールを素早く打ち返せるようになってきた。 ・友達と言葉を掛け合いながら、ポジショニングできるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールをキープしながら、移動して直接シュートしたり、友達にパスしたりする。（知・技） ・友達の声を聞いてポジショニングしたり、空いているスペースにシュートを打ち込んだりする。（思・判・表） ・自分のポジションの役割を理解し、周りの状況をよく見ながら動く。（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の声を聞いてポジショニングしたり、自分から声を出してボールを捕りに行ったりする。（思・判・表）
D 3・女	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのスピード感に慣れてきたことで、ボールに対して素早く反応したり、走って捕りに行く姿が見られたりするようになった。 ・シュートされたボールを止めて、壁方向に打ち返すことができる。 ・教師からの指示でポジショニングしたり、友達に立ち位置を伝えたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの動きを良く見て、壁側に打ち返したり、シュートコースを塞いだりする。（知・技） ・セットプレイのポジショニングを友達に伝えたり、自分で判断してボールをクリアしたりする。（思・判・表） ・自分の役割が分かって動いたり、進んで練習したりする。（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・セットプレイのポジショニングを友達に伝えたり、自分で判断してボールを捕りに行ったりする。（思・判・表）

<p>E 3・男</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のポジションの役割が分かったことで、積極的にボールを奪いに行ったり、味方に素早くパスしたりできるようになった。 ・相手のシュートコースを防ぎ、相手ボールを自分から捕りに行けるようになってきた。 ・周りの動きを見たり、友達からの指示を聞いたりすることで、自分の動き方が分かってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のポジションを理解し、味方の有利な方向にパスを出す。(知・技) ・味方の動きを見て、ポジショニングしたり、自分で判断してボールを捕りに行ったりする。(思・判・表) ・友達の良いプレイを認めたり、積極的に声を出したりする。(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況判断をして声を出して味方にパスしたり、相手ボールをカットしたりする。(思・判・表)
<p>F 2・女</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハイスティック」というルールが分かり、意識してスティックを振るようになってきた。 ・スティックの持ち方が分かり、ブレードにボールが当たるようになってきた。 ・自分のだいたい立ち位置が分かってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スティックを両手で持ち、味方にパスしたり、シュートを打ったりする。(知・技) ・友達の名前を呼んでパスを出したり、自分からボールを捕りに行ったりする。(思・判・表) ・ネオホッケーの基本的なルールやマナーを覚える。(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・味方の名前を呼んでパスを出したり、自分からボールを捕りに行ったりする。(思・判・表)
<p>G 2・女</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7分間コートを往復できる持久力が付き、相手の良いプレイをまねしたり、学んだ技術をすぐにゲームで実践したりするようになってきた。 ・浮き球処理では、体に当たったボールをキープしたり、シュートしたりできるようになってきた。 ・周りの動きを見て、だいたいのポジショニングが分かってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールの枠をねらってシュートを打ったり、味方に正確にパスしたりする。(知・技) ・自分で判断してボールを捕りに行ったり、友達同士で言葉を掛け合ってポジショニングしたりする。(思・判・表) ・ネオホッケーの基本的なルールを理解し、友達の良いプレイを称賛する。(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から声を出してボールを捕りに行ったり、味方の声を聞いてポジショニングしたりする。(思・判・表)
<p>H 2・女</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのスピード感に慣れてきたことで、速いボールが打ち返せるようになってきた。 ・ハイスティックに気を付けてスティックを振れるようになってきた。 ・だいたいのポジショニングが分かってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スティックを両手で持ち、打ちたい方向にブレードを向けて打つ。(知・技) ・周りの動きを見て、自分から声を出してボールを捕りに行ったり、友達の名前を呼んでパスしたりする。(思・判・表) ・ネオホッケーの基本的なルールやマナーを理解し、自信をもって動く。(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から声を出して、ボールを捕りに行ったり、友達の名前を呼んでパスしたりする。(思・判・表)

(3) 学習過程

時間	学習活動 めあて まとめ	指導上の留意点等 ・教師の支援 ○予想される生徒の反応 評価基準
10分 5分 15分	(体育館：半面) 1 準備運動をする。 ・ストレッチ ・ボールタッチ 2 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> めあて セットプレイで 状況を判断して動こう </div> 3 浮き球処理のケース練習をする。 ・個人練習 ・全体練習	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我や熱中症防止のため、ストレッチとウォーミングアップの時間を確保したり、水分補給の時間を設定したりする。 ・様々なボールの変化に対応できるように、ドリブルしたり、バウンド処理したりする時間を設定する。 ・前時の授業を簡単に振り返った後に、本時のセットプレイの内容を説明し、動きについて発問する。 ○「友達の名前を呼んでパスします。」 ○「『後ろにいるよ』と声を掛けます。」 ・個人の技術向上のため、2人組になって浮き球処理の練習場面を設定する。(T1、T2) ・基礎練習が必要な2年生は、ボールタッチやパス、ボールの止め方等の見本を見せたり、教師とペアを組んで練習したりする。(T3) ・全体練習では前時の振り返りを行いながら、セットプレイの動きと言葉掛け等がイメージできるように、ポジションごとに配置してケース練習を行う。 ・ケース練習の動きの中で、めあてについて再確認する。 ○「自分が浮き球を捕れる時に、『はい』と声を出します。」
5分 5分 15分 25分 10分 4分 5分 1分	(体育館：全面) (ゲームコートの準備) 4 パス練習をする。 ・ショート ・ロング 5 セットプレイの練習をする。 ・味方ゴールライン 6 ゲームをする。 ・前半7分 ・休憩2分 ・後半7分 7 授業を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> まとめ セットプレイの動きは○○です。 </div> 8 整理体操をする。 9 片付けをする。 10 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で協力してゲームコートの準備ができるように、床にラインテープで目印を付け、ガード板を設置する。 ・オールコートの広さで、スティックを両手で振る強さや、足の踏み出し方が意識できるように、短い距離と長い距離でパス練習する時間を設定する。(T1～T3) ・練習相手と審判を2名の教師に依頼し、本番のようにゲームができるように、バスケットボール競技の生徒6名に相手役をお願いする。 ・味方キーパーからのセットプレイでは、オフenseやディフェンスの動きや言葉掛けについて、生徒同士でも話合えるように教師が質問したり、即時評価したりする。(T1～T3) ○「相手がボールを打ってきたら、声を出して私が捕りに行きます。」 ○「友達の動きを見て、空いているスペースに行きます。」 ・ゲーム前に、ポジションごとの動きを再確認する。 ・ゲーム中に課題点があった場合は、タイムアウトやハーフタイム中に作戦ボードを使って連携を確認したり、生徒に動き方を指導したりする。(T1～T3) ・セットプレイの動きについて、実際に動いて確認できるように、場面を設定する。(T1～T3) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・浮き球処理では声を出してボールを捕りに行ったり、友達と言葉を掛け合ってポジショニングしたりしている。 ・セットプレイで、自分の役割が分かっている。 ・味方と相手の立ち位置や状況に応じて、動きを判断している。 【動き、発言】 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の意欲につながるように、チームの良い点や次回の課題について簡潔に伝える。 ・体の調子を整えるために、整理体操の時間を確保する。 ・「チーム全員で協力して動く」という意識が身に付くように、片付ける時間を5分間とる。 ・整列を確認し、キャプテンに挨拶をお願いする。

(4) 配置図 (前半: 半面) 浮き球処理のケース練習



配置図 (後半: 全面) セットプレイ

